【訴えたいこと】

まず、いのちの尊厳です。

被ばくは限りなくゼロへ！

災害に強いまちづくりを。

安全な農作物、豊かな食に原発は相容れません。

最も弱い立場にあるものとの共生です。

犬猫殺処分ゼロはお金をかけなくてもできます。

大がかりな箱物はいりません。

教育、子育て、医療、福祉の重視です。

立憲主義、民主主義、福祉の充実は当然のことです。

「長靴を履いて、現場に駆けつける」

―このことの重要性を１０年の活動で学びました。

住民自治。行政文書や情報の徹底開示。

みんなが住みたくなる魅力ある茨城県を。

スローライフ、アートと音楽。

バラの城、ローズキャッスルでイメージアップ。

やさしさで、花を咲かせるまちづくり。

真にいのちにやさしい県政へ！

霞ヶ浦の浄化、環境の保全。

茨城は茨城で、中央に頼らずやりましょう。

原発を止めていのちを守ります
平和憲法９条の改憲に反対です

発行／いのち輝くいばらきの会　2017年7月号外　**ボランティア・カンパ募集中**

いのち輝く茨城の会の見解を紹介します。ご意見やご要望をお寄せください。

HP https://www.tsurutamakomi.com/　Email support@tsurutamakomi.com

つくば事務所　〒305-0051　つくば市二の宮2-12-6 山田ビル2A　TEL:029-859-3655　FAX:029-859-3656

水 戸 事務所　〒310-0804　水戸市白梅3-9-7 白梅ビル1F　TEL:029-246-5311　FAX:029-246-5322

【教員という仕事】

私にとって「女性の自立」は、人生の大きなテーマであります。夫婦別姓も自然なことでした。経済的に自立をしなければ、精神の真の自由もない、と思うことから、私は仕事をすることは当然の義務であり権利であると考えて参りました。

未来を担う若い人たちに、私の経験や知識を伝え、ともに学んでいけるこの教員という職業を私はとても大切にして参りましたので、どんなに多忙でありどんなに子育てや介護に追われても、これまで辞めることはありませんでした。

私はイタリア語・伊太利文学の教員としての職業を通し、若い人たちに、この閉ざされた日本という国の、外にひらかれた西欧社会の新しい価値観を伝えるように努めて参りました。人々の高い人権意識、北部で達成された男女平等、手篤い福祉、年間たった数万円の公立大学授業料、精神病棟のないトリエステ、頻発するストライキにも見られるように、社会が認める労働者の権利。受け入れられる多様性。

豊かな人生を過ごすためのスローフード、スローライフ提唱。国民投票による脱原発の決意。そして、美しい自然。芸術。音楽。

若い人たちの見識を海外に広げる一助となるように、私は語学だけでなく、すすんだイタリアの施策を学生たちに紹介して参りました。これを、今後は大学生だけでなく、もっと多くの方に、茨城県民にも伝えていけたらと願っております。

いのち輝く　いばらきの会
Ibaraki Vibrant Life Party

茨城県知事選挙予定候補

鶴田 まこみ
つるた　　真子美

8.27 県知事選挙

いばらきの明日を、ともに歩んでいきたい

【児童虐待防止の活動】

1999年に取手事件が起こりました。息子と同じ５歳の男の子が近所の取手で義父に殺されるという事件に衝撃を受け、その原因究明と再発防止のために動きました。

「いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい」の立ち上げに関わり、その後の茨城県や児童相談所との交渉で、行政との交渉の仕方、政策提言の仕方、現場活動を体験しました。社会の弱い存在にあらゆるしわ寄せがいくことを実感し、行政も警察もなかなか動かない現実をいかに変えていくか、奮闘しました。子どもの人権の尊重を呼び掛け、全国ネットワークもできました。市民運動の作り方を、学ばせて頂いた数年でした。

また、子育てを通して幼児教育にも関心を寄せ、イタリアの「個」を大切にする幼児教育「レッジョエミリアアプローチ」を日本に紹介する活動もしています。

【平頂山事件の現場へ】

弁護士である夫に同行し、中国遼寧省の平頂山（へいちょうざん）に行って参りました。戦前の日本軍の蛮行を目のあたりにし、戦争は許されないものであることを実感しました。

【動物保護の活動１０年】

地球は人間のものだけではありません。あらゆる生命体のものです。海、大地、そこに生きる虫、鳥、犬猫、野生動物、草木、森、環境全体の命の慈しみ。

ここに眼がいくようになったのは、弁護士である夫・坂本博之が、弁護士会のなかで公害環境委員として環境問題を専門としていることの影響があります。戦争と原発は最大の環境破壊である、というのが坂本の主張です。私も賛同しております。人間だけではない、かけがえのないあらゆる命が大切にされる社会が求められています。経済や利益よりも、まずいのちを！安全を！という思いです。

そのため、原発事故を経験して、東海第２原発の再稼働問題も含め、原発からいのちを守らなければ、という思いを強くしています。

2005年に猫を保護したことから、茨城で小さな命を護る活動を始めるに至った私は、2008 年に**「動物愛護を考える茨城県民ネットワークＣＡＰＩＮ（キャピン）」**を立ち上げて以降、これまで10年にわたり、小さな命に向き合って、動物保護活動を茨城県で行って参りましたが、現場を重視し、県内を飛び回り、犬猫を助け、生かし、やるべきことはやり尽くしました。

今度は、人間です。人間も動物です。原発事故や戦争があれば、犬猫の活動も吹き飛びます。弱い命はみな同じ、女性差別や障がい者差別は、みな根っこが同じです。

【知事選出馬の理由】

動物の保護活動を通してわかったことは、背景には常に「人間」の問題があるということです。犬や猫の虐待やネグレクトの相談を受けて駆けつけると、必ずと言っていいほど、そこには知的障がい、精神障がい、DVや人間のいじめ、貧困問題があり、人間の問題の解決にも奔走することになります。猫のえさを持って行くときに、野菜や豆腐や米を運んだり、警察や市役所に繋げたりして参りました。

そこで感じたのは、動物どころか人間のためにも行政や警察は動こうとはしない、ということです。私は役場や警察に抗議や要望をしながら、けっきょく誰も責任をとらず見殺しにされている家族の経済的精神的サポートをすることになるのです。社会のなかで必死に生きようとしている人々や動物、ちいさな命たちにまったく手を差し伸べない、冷たい行政のあり方と税金の使い方に対し、憤りを感じております。

機能しない行政、これをなんとかしなければ。行政や警察が機能しないため、本体は警察や行政がやるべきことをCAPINが行っています。

そして、背景にあるのは利権です。利権をなくし、真に県民のための県政にしていくこと、このほかにはありません。

小さな命を慈しむ、やさしい社会に、とにかく命を第一に。経済的豊かさは二の次でよいのです。だから、腐敗した国家とくっついていてはいけません。中央から離れ、茨城独自の道をいきましょう。あらゆる生命体とともに生きる道を。

そのためには、茨城の女性たちの明るく強いパワーを結集させた、大きな変化が必要です。「風の谷のナウシカ」のようなエコロジー先進県を出現させたいです。

プロフィール●鶴田真子美（つるたまこみ、本名＝坂本真子美）●1964年生まれ（52歳）●ヴェネツィア大学留学、東京外国語大学大学院卒●武蔵野音楽大学でイタリア語・イタリア文学教師●NHKテレビイタリア語会話講師●『いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい』発起人●『動物愛護を考える茨城県民ネットワークCAPIN』理事長●全国動物ネットワーク代表●家族／夫（坂本博之・弁護士）と長男、保護した猫たちとつくば市に暮らす